

第3学年1組 国語科 実践事例

日 時：平成23年11月24日(木)5校時

児童：3年1組 計28人

場 所：菩提寺北小学校 図書室

指導者：安田 智香子

1. 単元名 要約のたつ人になろう！

「もうどう犬の訓練」 東京書籍 3年下

2. めざす子どもの姿

(1)この単元で身につけさせたい言語の力

本単元は、国語〔第3学年及び第4学年〕の目標(3)「エ. 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること」「カ. 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。」言語活動例「オ. 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。」を受けて構成した。

3年生から総合的な学習の時間が始まった。総合的な学習の時間では、探究的な学習を通して自らの課題を見つけ、問題を解決する力を付けていきたいと考えている。問題を解決する方法としては、見学や体験的な活動に加えて、資料などから調べる活動を取り入れていく。調べる活動では、資料の内容を正しく読み取り、短くまとめる力が必要となってくる。

本単元では、説明文を正確に読み取り、書かれている内容を短くまとめる「要約する力」を身につけさせたいと考えている。「要約する力」を身に付けるために、文章中のだいたいな言葉や文を見つけることを重視したい。だいたいな言葉や文とは、要約するために中心となる言葉であると考えている。だいたいな言葉や文を見つける手掛かりとして、題名に関する言葉や繰り返し使われている言葉、また、指示語や接続語とそれにつながる文、文末表現に着目させる必要がある。だいたいな言葉や文に着目して、正しく意味を考えながら、ときには疑問をもって、教材文を読み、関連する情報とあわせることで、正確に読み取ることができると考えている。さらに、だいたいな言葉や文を使いながら、分かりやすく書きかえたり言葉をおぎなったりして、書かれている内容を短くまとめていく「要約する力」を身につけさせたい。

(2)身につけさせたい言語の力に関する子どもの実態

4月、説明文「自然のかくし絵」では、身近な昆虫の不思議な生態について書かれた内容に関心を持ちながら読み進めた。段落の中で繰り返し使われている言葉や、題名に関係する言葉、「このように」「ですから」などの接続語のあとの言葉や文に着目させ、印や線を引かせた。そうすることで、重要な言葉や内容であることに気づくことができた。

しかし、教師が着目の観点をその時々を示してやらないと気づくことはできないのが実情であった。この状況は、自らが言葉を選び、印や線をひき、だいたいな言葉や文を見つける力がついているとは言えない。叙述の中からだいたいな言葉や文を見つけることを、意識的に子どもは生活の中でしていないであろう。ほとんどの子どもは、文章をさらっと読んでしまい、内容を分かったつもりになっている。聞き返してみるとどうということが書かれていたのか理解できていないことが多い。これは、だいたいな言葉や文に着目して、しっかり意味を考えながら、ときには疑問をもって文章を読んでいないからだと考えている。

また、だいたいな言葉や文を使いながら、書かれている内容を短くまとめる力もまだ十分ついていない。要約という言葉も子どもは学習言語として獲得していない。

3. 教材の特質と指導の工夫

本教材「もうどう犬の訓練」は、盲導犬の訓練のステップと書かれている順が同じになっていて、時系列で書かれているので子どもに理解しやすい段落構成になっている。「1才になると」「さいしょは」「次は」「仕上げの1か月」といった順序や時期、期間を表す言葉に着目して、訓練の内容を読みとらせ、犬にとっての訓練の難度が徐々に上がっていることに気づかせたい。

また、段落のまとまりが明確で、まず、訓練の内容が一文で示された後、具体的な事例が述べられ

ており、訓練の意味を納得しながら読み進められるようになっていく。

さらに、だいたいな言葉や文を見つける際に必要な、題名に関する言葉が主語になっていることが多く、何について書かれた叙述なのか着目しやすい文章になっている。

また、自分が興味を持ったことについて図書を用いて調べ、要約する学習を通して、自分が必要な情報を得る力も身につけさせたい。教材文を読み進める中で、身近なペットとして飼われている犬と盲導犬との違いに気づき、盲導犬をはじめとするはたらく犬について「もっと知りたい」という思いを強く抱くものとする。そのため、図書の中から知りたいことを意欲的に探すことを期待している。

【質の高い言語活動を通して】

教材文だけでは必要な情報を得られるとは言えない。それは、筆者が自らの主旨を説明するために必要な情報を必要な順に提示するために、さまざまな情報が網羅されているとは言えない。したがって、自分の持っている課題や疑問を解決できないことや解決が不十分なことがよくある。そのため学習と関連した読書を並行して行う。そうすることにより、文章を正しく読んだり、疑問や課題を解決したりすることができるようになる。

一学期から教科に関わらず学習対象に関係する図書を、学級文庫として学習と並行して読書できるように、その期間置いた。どのような図書を取り寄せたのか簡単に内容を紹介することにより、子どもは興味を持って読書をする姿を多く見た。授業中にも教材と図書を関連づけた発言が多くみられ、さらに、移動図書館・マツゾウくんや図書室で関連する図書を探しだしてくる子どももいて、図書と子どもの距離が縮まったと感じている。

前単元「サーカスのライオン」でも並行読書を行なった。物語の中心となる人物の気持ちの変化を考えながら読めるようになる手立てのため、主人公を意識させた読書を意図した。

本単元では、学習展開の第2次で並行読書を取り入れた。その時間に読んだ図書の内容を簡単にカードにまとめ、ボードに貼って交流させていきたい。この活動を通して、情報の共有化と教材文の読みを正しく読み取ることの手立てとしていきたい。

【学校図書館機能を生かして】

本単元では、学習・情報センターとしての学校図書館の機能を生かして、子どもが、主体的に学習に取り組めるように工夫した。

並行読書を生かして「もうどう犬の訓練」を正しく読むことにはたらく図書を選んだ。幅広い観点から読めるように、説明した図書や図鑑だけに限らず、絵本や物語なども含んで選書とした。また、選書の「盲導犬」や「犬」だけに限らず、目の不自由な方、訓練士、パピーウォーカーも含んで選書することで、教材文を広い視野から正しく読むことができると考えた。

学習展開第3次のはたらく犬について学ぶ学習の選書は、キーワードを「はたらく犬」に限定して選書した。様々な場面で、特長を生かしたり、おさえてりしながら、はたらく犬を「もうどう犬の訓練」で学んだことを手掛かりにし、要約できるようにと考えている。

さらに、本単元では、2回のブックトークを設定した。1回目は第1次1時間目の学習の中で、盲導犬に関連する図書のブックトークを行う。関連図書を選び、教室やオープンに置いておくよりも、ブックトークをすることによって、より一層子どもの興味や関心を高めることができると考えている。

2回目は第3次1時間目に設定した。2回目のブックトークは、盲導犬、聴導犬、介護犬などはたらく犬を紹介する。これをきっかけとして、子どもが興味を持った内容について調べ学習を行う。その際に課題を決める手がかりとなるようにと取り入れた。

2度のブックトークを協力員にまかせた。子どもにとって協力員は、「図書館の先生」で、図書の専門家としてわからないときは相談する人となっているからである。担任ではない「図書館の先生」のパワーも活用して、図書へのいざないを強め、並行読書にも調べ学習にも子どもは意欲的に取り組めるものと考えている。

本単元では、並行読書や調べ学習で多くの図書を用いて学習を展開していく。子どもには多くの図書の中から並行読書の図書や調べ学習の図書を目的に応じて選ばせたい。そのためにも本校の蔵書以外にも図書流通システムを使い湖南市各学校、公共図書館より、図書を借りることとした。図書の冊数はもとより、多くの分野の図書を借りられることで、本単元を有意義な学習としたい。

4. 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・はたらく動物について関心を持って読み、進んでいるいろいろな資料を読んで調べようとしている。	◎目的に応じて、だいたいな言葉や文を見つげながら読んでいる。 ◎だいたいな言葉や文を押さえ、書かれている内容を要約しながら読んでいる。 ・文章を読んでもっと詳しく知りたいたいと思ったことを知るために、内容が関連する他の図書を探して読んでいる。	・知りたい事柄について、図書や資料を読んで調べ、ワークシートに書く事柄を考えている。 ・調べて分かったことを整理し、要約して書いている。	・重要語句や意味の分からない言葉を国語辞典を使って調べている。 ・題名に関連する言葉や接続語、文末表現を手がかりにだいたいな言葉を見つけ文章の要約を考えている。

5. 単元計画(全11時間)

【単元目標】

- ・何について書かれているか考えながら読み、だいたいな言葉や文を見つけることができる。
- ・だいたいな言葉や文を使い、書かれている内容を要約することができる。
- ・はたらく犬について知りたいことを図書を使って調べ、要約することができる。

次	時間	指導内容	主な学習活動
一	1	○学習の見通しを持つ。 ※ブックトーク 〈もうどう犬の図書〉	<ul style="list-style-type: none"> ・盲導犬についてのブックトークを聞く。 ・5分間の並行読書。 ・教科書P32の教材冒頭を読み、教材のねらいと活動の流れを確かめる。 ・「もうどう犬の訓練」を通読する。
二	4	○「もうどう犬の訓練」を動物としての特徴を生かしたり、おさえたりする訓練を正しく読み取り、要約する。 1 「要約のたつ人」のわざを知る。 形式段落①～③を読み、はたらく犬の中のもうどう犬について要約する。 2 形式段落④、⑤～⑧を読み、人間の言うことに従う訓練を要約する。 3 形式段落⑨～⑫を読み、人を安全に導く訓練を要約する。 4 形式段落⑬～⑭、⑮、⑯を読み、もうどう犬にふさわしい心がまえを身につける訓練を要約する。	<ul style="list-style-type: none"> ・5分間の並行読書。 ・「要約のたつ人」のわざを読み、要約の方法を「もうどう犬の訓練」で身につける。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>「要約のたつ人」</p> <p>1 だいたいな言葉や文を見つける。</p> <p>2 内容を短くまとめる。</p> <p>だいたいな言葉や文を使う。</p> <p>分かりやすく書きかえたり</p> <p>言葉をおぎなったりする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉や文の選び方がわかりをもとにだいたいな言葉をつなぐと正しく読むことにつながることを学び合う。 ・要約することで伝えやすくなることを学び合う。
三	5	○もっと知りたいことを図書資料を使って調べる。 1 ※ブックトーク 〈はたらく犬の図書〉 グループにわかるる。 2 「はたらく犬」ごとの課題を決める。 課題について調べ要約する。 3 課題について調べ要約する。 (本時3/5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックトークを聞き、はたらく犬についてもっと知りたいことを決める。 ・課題について、図書資料で調べる。 ・だいたいな言葉や文を見つけてワークシートに書き出す。 ・書き出した文を要約する。 ・「要約のたつ人」のわざを確認する。 ・友だちのワークシートから学ぶ。

		4 課題について調べ要約する。 5 課題について調べ要約する。	↓
四	1	○学習を振り返る。 ◎はたらく犬の報告会をする。 テーマごとの「はたらく犬」のポスターを読み合い、友達のとよさを見つめる。	・ワークシートをテーマごとにまとめ、模造紙に貼ったものをポスター掲示する。 ・友達の要約した文章を読み合う。 ・この学習でできるようになったことを振り返る。

6. 本時の目標（本時 8 / 1 1 時間）

- ・調べて分かったことを整理して、だいたいな言葉や文を生かして要約することができる。

7. 本時の展開

学習活動	指導のポイントと教師の支援	評価、評価方法
1 本時のめあてを確かめる。	○調べ学習の見通しを持たせ、本時の学習内容 調べる 要約する を掲示し、確認する。 ○書き出し方、「要約のたつ人」のわざについて確認する。	・学習の流れを確かめようとしている。 ・「要約のたつ人」を見て、確かめようとしている。（観察）
2 はたらく犬について知りたいことを調べ、だいたいな言葉や文を書き出す。	○課題について調べ、ワークシートに記入させる。 ○課題が持てない子についての支援 ・イメージマップを振り返らせて、新たな疑問を持てるようにながす。 ・友達と課題の交流するようにながす。 ・「もうどう犬の訓練」と対比して課題をほかの「はたらく犬」で調べさせる。 ○課題が解決しない子についての支援 ・指導者が解決できる具体的な課題になるよう考えを整理するヒントを与える。 ・グループの友達に相談するようにながす。	・課題にあわせて、必要なところは文で書き出している。 ・課題にあわせて、だいたいな言葉に印をつけている。 （観察・ワークシート）
3 調べて分かったことを要約する。	○書き出した文に線をひかせたり、印を付けたりしながら、書かれている内容を自力で要約できるよう支援する。 ○要約できない子、丸写してしまう子についての支援 ・接続語や文末表現に注目させ大切な言葉や文をたしかめるようにながす。 ・文章をじっくり読み、だいたいな言葉を見つめるようにながす。 ・教材文の要約のしかたを例示しておき、思い出せるようにする。	・「もうどう犬の訓練」で身につけた要約の仕方を確かめようとしている。 （観察） ・調べて分かったことを整理して、だいたいな言葉や文を使いながら要約している。 （観察・ワークシート）
4 友達のワークシートに学ぶ。	○子どもたちの次時の学習のヒントとなるような要約文を電子黒板に写し、紹介して、要約のポイントをほめながら確認する。 ○交流ボードに早くできた子のワークシートを掲示し、情報が共有できる場とする。	・次時の学習のヒントを見つけようとしている。 （観察・つぶやき聞き取り）

8. 座席表

探 査 犬	
救 助 犬	訪 問 活 動 犬
	介 助 犬
警 察 犬	聴 導 犬

9. 考察

【質の高い言語活動を通して】

本単元、第1次と第2次では、並行読書を行った。なぜなら、教材文だけでは、必要な情報を得られるとは言えず、自分の持っている課題や疑問を解決できないことや、解決が不十分なことがあるからだ。そして、教材文を広い視野から正しく読むことができるように、「盲導犬」や「犬」だけに限らず、目の不自由な方、訓練士、パピーウォーカーも含んで選書した。使用した図書は、同じ図書もあるが、約90冊。

比較的、盲導犬に関する本が人気があった。特に、「もうどう犬ドリーナ」「今日から、あなたは盲導犬」「盲導犬グレフ誕生物語」の3つ。他には、「みえないってどんなこと」「どんなかんじかなあ」など、目の不自由な方の気持ちの本も、読書する子が多くいた。

授業では、並行読書した中からの、教材文に関する発言がみられた。例えば、「ハーネスがついてるとお仕事なんだ。」「一才になるまでは、パピーウォーカーっていう人たちに育てられる。」「訓練中失敗しても何度でもやりなおす。」「ここに載ってる以外に、～する訓練がある。」など、教材文にはないことの発言をする子どもや、「知ってる！～って本にかいてあった。」と発言する子どもがいた。

並行読書を行うことにより、教材文の読みを正しく読み取ることの手立てとなったのではないか、と思う。そして、何より、一学期から教科に関わらず学習対象に関係する図書を、学級文庫として置いたり、紹介したりしてきたこともあり、読書が楽しい、好きだ、と思う子どもが多く、5分間の並行読書を、静かに、意欲的に活動することができた。

【学校図書館機能を生かして】

学校図書館協力委員に2回のブックトークをまかせた。1回目は第1次1時間目の学習の中で、盲導犬に関連するブックトーク。子どもたちは意欲的に協力員の質問に挙手し、答えている場面があった。協力員は、質問形式で楽しくブックトークを進め、子どもの興味や関心を高めることができた。

ブックトーク後に並行読書の時間を行ったが、やはり、紹介された本は、一番人気であった。授業中も「協力員さんが言ってたよ。」と教材に関連づけた発言もみられた。



2回目のブックトークは、はたらく犬を紹介した。これをきっかけとして、子どもが興味を持った内容について調べ学習を行う際に、課題を決める手がかりとなるようにと考え取り入れた。盲導犬と比べた内容や、協力員本人が、この本を読んで驚いた内容を中心にブックトークを進めた。「へえ〜!」「すごい!」と紹介した内容に子どもは大きく反応した。

担任ではない「図書館の先生」のパワーも活用して、図書へのいざないを強め、並行読書にも調べ学習にも子どもは意欲的に取り組めたと考える。

そして、本単元では、並行読書や調べ学習で、必ず一人一冊手に取れるよう、多くの図書を用いて学習を展開した。本校の蔵書以外にも図書流通システムを使い湖南省各学校や公共図書館より図書を借りた。図書の冊数はもとより、多くの分野の図書を借りられることで本単元を有意義な学習となった。



【本単元を終えて】

第3次の第1時間目では、「できるかな。」「これでいいのかな。」という思いが子どもの中にあった。教材文では「要約できた。」と思っていたのに、一冊の図書から見つけ出すのは容易ではなかった。しかし、5時間積み重ねることで、第4次では、「要約のたつ人になった。」と要約することに自信を持ち、「要約することは楽しい。」と思う子どもばかりであった。

はたらく犬の報告会では、模造紙に調べた課題ごとにワークシートを貼り付けた。そして、完成した後、友だちの書いた要約文を読み合った。要約文だけを掲示するのではなく、記入したワークシートをそのまま掲示することで、友だちが、図書資料からだいたいの言葉や文を見つけて書き出したのを知ることができた。さらに、その文に、印や線をひいた痕跡があることで、何をだいたいの言葉としているのか、どのように言葉をおぎなったり分かりやすく書きかえたりして内容を短くまとめているかがわかりやすかった。「この要約上手やな。」「ぼくのと同じのを調べてるのに、要約文が少し違う。」などの発見があった。その後、模造紙をオープンスペースに掲示し、全員で読み合った。図書資料から書き出した文よりも、要約文は、短くて分かりやすいことがわかった。

本単元では、「要約」にこだわったことにより、子どもの大きな変容がみられたと思う。そして、子どもたちに要約させるには単元の出口の学習を明確にし、目的意識を持って要約できるようにすることが大切であると感じた。また、子どもの要約文に対し、教師が確かな評価をしていくことが、子どもの伸びにつながるのではないかと考える。

